

平成 23 年度 入学式

平成 23 年 4 月 14 日

ページ作成：盛岡四高 HP 制作委員会



4 月 1 4 日、震災の影響で延期された入学式が行われました。
2 8 4 名の入学生を代表して、
1 年 1 組の藤田優希さんが代表して挨拶しました。





須貝竹志校長式辞

式 辞

平成二十三年度岩手県立盛岡第四高等学校の入学式を挙行するにあたり、ご多忙の中を、多くのご来賓の皆様のご臨席をいただきましたことは、学校にとりまして誠にありがたく厚く御礼申し上げます。また、これまで本校の教育に対しまして御理解と御協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

ただいま入学を許可された二百八十四名の新入生のみなさん、入学おめでとう。職員・在校生共々心から歓迎いたします。保護者の皆様におかれましても、難関を乗り越え入学を果たしたご子女の今日の晴れ姿をごらんになり、感激もひとしかとお察しいたします。本当におめでとうございます。

さて新入生の皆さん。皆さんが学力検査を終え、合格発表を緊張の中にも期待を込め待っていたあのとき、大震災が起きました。沿岸各地域では、これまで誰も想像をしていなかった大津波が、あっという間に町を呑み込みました。未だ

に多くの人々が苦しい避難生活を科せられております。皆さんには、この現実を注視しつつしっかり受け止め、こうして例年の通り入学式をできることに感謝をし、今の自分にできることを一生懸命にやる、そして皆さんの力が必要なときがきたら、百の理屈より一つの行動が大事だ、そのことを心にしっかり受け止め高校生活のスタートを切ってほしい、そう強く願うものであります。

さて本校は一九六四年昭和三十三年に開校し今年で四十有余年、多くのその道で卓越した人材を世に送り出して参りました。開校以来脈々と受け継がれて参りました、大きな志を持ち、郷土が生んだ先覚者を敬愛し、物事の真理を探究し、誠実に生きる人間を育てまいりました。この、大志・敬愛・真理・誠実は本校の四大綱領として、初代校長目時隆太郎先生が、校歌の歌詞に生かし本校建学の支柱ともなるものです。宮沢賢治の崇高な精神と新渡戸稲造の卓越した国際感覚は本校に息づく確かな伝統となりました。皆さんもこの郷土が誇る偉人に学び、己の立ち位置をどこに求めるか高校三年間でしっかり見極めてほしいと願っております。

ここで、新入生の皆さんに、これから送ろうとしている盛岡第四高校での生活について、私の考えていることをお話ししたいと思います。

皆さんも一度は耳にしたことがある言葉かもしれませんが、地動説を是認した天才天文学者ガリレオガリレイは「その人から何も学ばないほど無知な人には会ったことがない。」と言っています。できる人ほど、他人の言動に触発さ

れ自らの至らなさを反省する、この謙虚な姿勢こそ学問の向上に必要なことなのです。日本においても「学ぶという姿勢があれば万物のすべては先生になる」と言っている経済人もおります。この盛岡第四高校には、八百有余名の生徒諸君と六十数名の教職員が日々切磋琢磨しております。年齢や性別に関係なく、常に誰かから何かを学ぶ、こういう謙虚な気持ちと行動力を、是非持ち続けてほしいと願っております。

次に皆さん、高校の学習に必要なものは何だと思えますか。これまで皆さんが当たり前とってきたことが本当に正しいのか、間違っていないのか、確かめようとする探究心であり、疑問を解決しようとする心構え、これこそが高校の学習の基本である、と私は思います。「常識とは、十八歳にまで作られた先入観である。」と、物理学者アルベルトアインシュタイン博士は言っております。高校の様々な学習の中で、これまで当たり前とってきた概念から、一歩進んだ学習がたびたび出てきます。日々、これらのことに感動し、物事の本質を見極める精神を養ってほしいと願っております。

言わずもがなではありますが、高校生活の両輪は学習活動と特別活動であります。特別活動には、皆さんが期待をしているだろう“部活動”や“生徒会活動”などがあります。本校は、学校として文武両道を目指しているのではありません。生徒一人ひとりが学習にも部活動にも一生懸命取り組む、いわば個々が文武とも極める文武一道の精神を貫いております。時には、両立に悩み、時間の少なさに苦しむ場面が出てくるでしょう。しかし、この困難こそ己を研く砥石であり、

各々のこれからの道を切り開く原動力になるのです。困難のないところに進歩はありません。困難に打ち勝つ努力のないところに成長はありません。是非、粘り強い精神で乗り切ってください。私たち教職員は、きっとそういう皆さんを力強く支え、心から応援します。安心して盛岡第四高校での一歩をスタートさせて下さい。

終りになりますが、これからの学校教育は、単に学校だけで行うものではありません。保護者の皆様方や地域の皆様方から支えられ、ご協力をいただく中で行うものであります。この三者が同じベクトルで教育に邁進してこそよき学校経営ができるものと信じております。どうか、子供たちの成長をともに見つめ、盛岡第四高校のさらなる発展に力をお貸しいただきたいと思っております。

三年後、この学び舎で“良き師”“良き友”を得、大きく成長していく皆さんを祈念し式辞といたします。

平成二十三年四月十四日

岩手県立盛岡第四高等学校長 須貝竹志